日本政策金融公庫
技術の窓　№2507　　R3.8.25

定植翌春に収穫して完結する
アスパラガス短期完結栽培

長野県のアスパラガス生産量は近年大きく減少しており、特に長野県産地が大きなシェアを担うべき４月～５月の需要期における出荷量が減少しています。生産量を増やすためには既存の生産者の単収向上に加えて、多くの生産者が取り組みやすい新たな栽培方式の開発が必要となります。そこで、長野県野菜花き試験場では、葉洋菜産地等における輪作品目としてのアスパラガス導入を見据え、一年間株養成後、翌年に収穫を行って完結する栽培方法を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

１．育苗は２月中旬頃に 128 穴セルトレイに播種し、加温育苗を行います。
２．全面マルチ（畝幅 45cm）を用いた株養成では、栽植密度は２畝定植・1 畝空き、株間 37.5cm とし、セル苗を深さ 10cm で４月下旬頃に定植します。
３．畝高さ 25cm 程度の高畝にする改良マルチを用いた株養成では、畝幅 120cm 株間 25cm とし、深さ 20cm ほどの深い穴を開け、セル苗を４月下旬頃に定植します。
４．１年目は秋まで株養成を行い、翌春に萌芽する若茎を全て収穫し栽培を完結します。品種は「ウェルカム AT」が多収であり、800～1,000kg/10a の収量が得られます。
５．収穫終了後、アスパラガス根株をすき込み、約１か月経過すれば後作の栽培が可能です。
６．アスパラガス短期完結栽培の農業所得（試算値）は 10a あたり 32 万円～47 万円程度です。

アスパラガス短期完結栽培の流れ

☆ 活用面での留意点

１．株養成中に茎枯病及び斑点病が多発すると減収につながるため、発病には注意します。
２．アスパラガス栽培後に根株をすき込んでから１か月未満でレタス及びはくさいを定植した場合には収量がやや低くなる場合があります。根株のすき込みは丁寧に行ってください。
３．詳しいことは、長野県野菜花き試験場（TEL:0263-52-1148）まで、お問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部　テクニカルアドバイザー　吉岡　宏）